

【資料1】

平成23年度 鹿島市立鹿島小学校 学校評価計画

<p>1 学校教育目標</p> <p>元気でなかよく楽しい学校</p> <p>知・・・進んで学習に取り組み、楽しく勉強する子ども</p> <p>徳・・・人に迷惑をかけず、仲良くがんばる子ども</p> <p>体・・・いつも笑顔で、元気いっぱい活動する子ども</p>

<p>2 学校経営ビジョン</p> <p>下村湖人先生の教えを学校経営の基本に据える。→『生命の教育』 郷土(ゆたかな生命)・師弟(清い生命)・友人(楽しい生命)</p> <p>(めざす子ども像) ○ 何事にも元気いっぱい取り組む子ども</p> <p>(めざす学校像) ○ 地域に開かれた学校</p> <p>(めざす教師像) ○ 地域・保護者・児童に信頼される教師</p>
--

<p>3 本年度の重点目標</p> <p>① 国語や算数の基礎基本の習得はもちろん活用力の向上を図る。特に国語と算数の関心・意欲を育てるために楽しく分かる指導方法の工夫改善を図る。</p> <p>② 生活習慣の確立・規範意識を育てるために人に迷惑をかけない心とやさしい言葉遣い、あいさつをベースにしたなごやかな人間関係を中心に心づくりに取り組む。</p> <p>③ 市内幼・保と小・中学校との連携を図り、学習、生徒指導、教育相談でス</p>	<p>4 前年度の成果と課題</p> <p>・学習への関心・意欲を高めるために楽しく分かる授業の工夫改善(身近な問題や興味を起こす問題提示、学んだことが活かされるような場面の設定など)が課題である。</p> <p>・生活習慣、生活指導では、保護者との連携を強化し、規範意識を高めていくことが課題である。</p>
--	---

5 総括表

① 国語や算数の基礎基本の習得はもちろん活用力の向上を図る。特に国語と算数の関心・意欲を育てるために楽しく分かる指導方法の工夫改善を図る。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○学校経営方針	本年度の重点目標の周知並びに情報公開	・PTA総会、学校便り、ホームページを通して周知を図り、保護者の認知度を80%以上にする。	・昨年度と同じように学校便り、PTA総会総会、学級懇談会等で具体的取組を説明する。 ・ホームページで情報公開する。
	○教職員の資質向上	教職員の意識改革及び職員研修、授業研究の充実	・研究授業を全員実施し、授業力を向上させる。	・国語、算数の授業研究会では講師を招聘し、授業論、指導方法、指導技術等指導力を向上させる。
	○特色ある学校づくり	国語科や算数科における指導方法の工夫改善と学力向上 魅力ある学校づくり推進事業におけるキャリア教育の推進	・少人数TT担当教員を核にして指導方法の改善や学力向上に努める。 ・国語科、算数科の言語活動の具現化に努め他教科に広げる。	・児童の実態に応じた指導方法の工夫改善を行う。 ・基礎基本の定着と思考力・表現力を向上させる。 ・国語科の研究を他教科へ発展させる。
	○危機管理体制の整備	交通事故・生活事故防止と危険回避能力の育成	・交通事故や生活事故、不審者等の未然防止に努める。 ・各学期2回の集団下校、毎日学年で下校時刻を揃える。	・交通安全教室の開催、不審者等への対応など生活指導を強化する。 ・防犯ボランティア、青パト等との連携を強化する。
	○家庭との連携	保護者との信頼関係強化	・家庭との連携は迅速・丁寧・誠実を心がけ、電話での対応では言葉遣いに気を配る。	・学校便り、学級便り、はなまる連絡帳等で定期的な発信を行う。 ・電話等で丁寧な対応を行う。
	○開かれた学校づくり	教育活動等学校の情報を家庭や地域に積極的に提供	・授業参観参加者率70%以上、学級懇談参加者率50%以上にする。 ・フリー参観日で地域住民参加者50名以上をめざす。	・フリー参観日を設定し、幼稚園・保育所、老人クラブ等へ呼びかける。 ・地域ボランティアの活用を推進する。

② 生活習慣の確立・規範意識を育てるために人に迷惑をかけない心とやさしい言葉遣い、あいさつをベースにしたなごやかな人間関係を中心に心づくりに取り組む。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●学力向上	・基礎的・基本的学力の定着と思考力・表現力の向上	・国や県の学習状況調査では、平均を上回る。 ・CRTでは興味関心を高め、国語は全国標準105以上、算数は110以上を達成する。	・TTを核とし、児童を主体においた楽しく分かる授業を工夫する。 ・学期末には全校一斉に漢字計算フェスタを行い、基礎的事項の徹底した定着を行う。 ・長期休業中に補充指導を行う。
	●心の教育	・人に迷惑をかけない心と優しい言葉遣い ・あいさつをベースにしたなごやかな人間関係	・生活態度のモデル化を行う。 ・月初めに命・いじめを考える日を設定する。 ・参観日には心・命に関する道徳の授業を行う。	・自律した生活態度を徹底させる。 ・命・いじめに関する授業を行う。 ・授業参観日には、保護者にも一緒に考えてもらう道徳の授業を年1回は実施する。 ・異学年活動やボランティア活動の実践。 ・地域の人材を活用して将来の職業を展望できるようなキャリア教育を実践する。
	●健康・体づくり	・基本的な生活習慣の確立と運動、食、病気の予防と治療	・養護教諭、栄養教諭と連携し、健康教育、食育を進める。 ・運動の楽しさを実感させる。	・毎日の健康観察、時季に応じた健康管理の指導。 ・食育の推進 ・休み時間は外で遊ぶように勧めるとともに、自分ができる範囲で季節に合わせた体力づくりを勧める。

○家庭学習習慣の育成	学習習慣の定着による学力の向上	・家庭学習時間の達成80%以上をめざす。 低: 30分程度 中: 45分程度 高: 1時間以上	・「学習のてびき(授業編・家庭学習編・生活編)」を作成配布し、学年に応じた家庭学習の進め方について家庭への協力を依頼する。
○読書指導	やさしい心を育てるための家庭読書・読書習慣の形成	・年間読書冊数を90冊以上にする。また、50冊以下を20%以下にする。 ・「学年おすすめの本」の読書率80%以上にする。	・朝の読書タイムを充実させる。 ・PTA母親部や読み聞かせボランティア「はばたきの会」と連携し、読み聞かせを実施する。

③ 市内幼・保と小・中学校との連携を図り、学習、生徒指導、教育相談でスムーズで一貫した取組を推進する。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
特定課題	●小学校低学年の学習環境の充実	基本的な学習習慣や生活習慣の確立 TTの工夫、楽しくきめ細かな指導	・元気なあいさつ・掃除・学習準備・人の話を聞くの4つの完全習得者を90%以上にする。	・基本的な学習習慣・生活習慣の徹底的な定着のため家庭との連携を図る。 ・生活・学習習慣の発達段階に応じた指導を工夫する。
	○幼・保・小・中連携	校区内の幼稚園・保育園との連携強化 西部中学校との連携強化	・幼保小連携を年間2回以上、小中連携を年間5回以上開催する。	・幼保小中連携では、授業の相互公開、体験を取り入れた授業などにより、小1プロブレム、中1ギャップ解消に取り組む。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策

●は共通評価項目、○は独自評価項目